



分科会 7 ストップ薬物乱用、チャレンジくすり 健康教育—学校薬剤師の新時代—

W-07-05

薬乱防止もくすり教育も携わるのは学校薬剤師 —熊本県薬剤師会学校薬剤師委員会の取り組み—

とみなが こうじ
富永 孝治

(社)熊本県薬剤師会 常務理事

平成 20 年 8 月に第 8 回九州地区健康教育研究大会が熊本県で開催された。熊本県薬剤師会は禁煙・飲酒・薬物乱用防止教育についての分科会を担当し、当県薬の宇城（うき）支部が中心となって、学校薬剤師による薬物乱用防止教室での講演活動の普及までの取り組みについて発表した。この取り組みは平成 17 年からの薬物乱用防止教室への学校薬剤師の参加を呼び掛ける支部活動の中で、経験に係わらず講演できる効果音を付けたパワーポイントによるプレゼンテーションを作成し、これを提供するというものだった。この取り組みの結果、これまではほとんどの学校薬剤師が学校の環境保全の仕事はしても薬物乱用防止等の活動に参加できていなかったという状況が改善され、多数の学校薬剤師が薬物乱用防止教室に積極的に参加し、講演を行ったという発表がなされた。私はこの分科会の研究協議の最後に、熊本全県下において薬物乱用防止教室に学校薬剤師が十分参加していないという状況を顧みて「熊本県薬剤師会においても今後この活動を広げていきたい。学校薬剤師が学校環境衛生に係わる仕事だけでなく、薬物乱用防止とか医薬品の適正使用といった広い意味での健康教育にも積極的に参画できるように取り組んでいるところである。会場の皆さんには、薬物乱用防止教育及び健康教育にも、どんどん学校薬剤師を使っていたきたい。」と発言した。この大会の準備と発表を機に熊本県薬剤師会においても学校薬剤師が中心となって薬物乱用防止教育に携わるべきであるとの意識が高まり、県下全ての学校薬剤師に対して薬物乱用防止教育参加への更なる支援を行うこととなった。この 2 年余りの熊本県学校薬剤師委員会による薬物乱用防止教育への取り組みについて報告する。

熊本県薬剤師会学校薬剤師委員会では当委員会の 8 名と県内 12 支部から選ばれた 16 名の合計 24 名で薬物乱用防止プロジェクトを立ち上げた。協議は活発な意見を交換できるスモールグループディスカッション形式で行い、効果的なプレゼンテーションや講演前後のアンケートの内容と評価等、薬物乱用防止教育をより効果的に行うためにいくつかの課題を検討した。また、メンバーが一か所に集合して限られた時間内で具体的なプレゼンテーションの内容についての討議を行うことは難しいため、各自自由な時間に検討を行うことができる環境として、ネットワーク接続ストレージ（通称 NAS：インターネットに直接接続する外付けハードディスク）を導入することとした。この NAS 導入により、時間制限にとらわれることなく、新しいアイデアを提案し意見を交換し合えることができるようになった。さらに、メーリングリストの活用により全員が問題を確認できるようになり、会議では学校薬剤師の薬物乱用防止活動についてより深いディスカッションに入ることができた。このようにして作成された講演前後のアンケートや誰でも使えるパワーポイント資料・受動喫煙の影響を示した実験動画等は各支部を通じて各学校薬剤師に配布された。結果として多くの学校薬剤師に利用され、多くの子供たちや学校関係者に好評を得ることとなった。更には小学校用及び中学校用の講演用の教材として各プレゼンテーション用のパワーポイント資料を県薬のホームページにアップし、会員がいつでも最新の教材が入手できるように学校薬剤師の支援を行った。今では、熊本県下の学校での薬物乱用防止教室の職種別講演率は学校薬剤師が 46% 以上となりトップを示している。

現在、熊本県薬剤師会では薬剤師の職能を県民の皆さんに知っていただくためのテレビ放映を行っている。中でも学校薬剤師が子供たちへの薬物乱用防止教室で講演する姿は胸を打つものがある。薬物乱用防止教育はもちろん医薬品適正使用教育も、本来は、子供たちが薬物に汚染されないよう、また医薬品の間違った使い方をしないようにと願う私たちの想いによって行われるべきである。これからの学校薬剤師は、社会の要請に基づいて積極的に学校保健活動に参画し、将来を担う子供たちの健康づくりを支援しなければならない。熊本県薬剤師会学校薬剤師委員会は薬物乱用プロジェクトを健康教育プロジェクトと名称を替え次の目標である「くすりの正しい使い方」講演を学校薬剤師が行うことを検討している。